

2025年8月号 柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2024 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

8月号 柳沢プログラム

8月の運動療育

- | | |
|--------------|---------------------|
| 【基礎】お布団折り | ▶ 【発展】サルクレーン車 |
| 【基礎】片足引きずりクマ | ▶ 【発展】片足クマ |
| 【基礎】グーチョキパー | ▶ 【発展】歌に合わせてグーチョキパー |
| 【基礎】前転 | ▶ 【発展】高速前転 |
| 【基礎】つま先歩き | ▶ 【発展】カメさん |
| 【基礎】クモの巣側転 | ▶ 【発展】側転 |



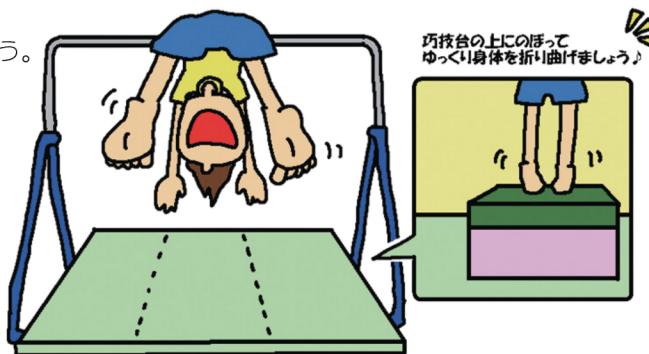
8月のコラム

- | | |
|------------------------|-------------------|
| <u>運動プログラム応用アレンジ</u> | ▶ マット綱引き |
| <u>作業療法士による発達支援コラム</u> | ▶ お子さんのO脚について |
| <u>こどもを守る安全対策だより</u> | ▶ 外遊び・室内遊びの基本ルール |
| <u>アクティビティ紹介</u> | ▶ 釣り堀体験 |
| <u>職員インタビュー</u> | ▶ ことのは4号館言語聴覚士R先生 |



基礎編 ▶ お布団折り

1. 低い鉄棒を用意します。巧技台を使ってお子さんのおヘソより少し高いくらいに設定しましょう。
2. 鉄棒の上に上ったらゆっくりと上半身を折り曲げましょう。
3. お布団を干したように頭を下にしたら、ゆっくりと手を離しましょう。
4. 顔を下に向けすぎず、足が着地するマットを見るようにしましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- 高い鉄棒で行うと恐怖心を抱いてしまう子が出てきます。
- 高さになれるのではなく、逆さまになった状態で鉄棒をお腹で挟むことに慣れるのが目的です。
- できるだけ低い鉄棒で実施しましょう。
- 手を離すのが怖い子は、無理をして離す必要はありません。まずは逆さまになることに慣れましょう。
- どうしても手が離せない場合は、巧技台などで低い鉄棒を作って手を伸ばしたときに床に手が届くようにして行ってみましょう。

養われる力

- ◆ 逆さ感覚：日常の上下感覚と逆の環境に慣れる
- ◆ 身体のコントロール：お腹と太ももで鉄棒をしっかり挟んで鉄棒に巻きつくことができる
- ◆ イメージ力：お布団のように2つ折りになることができる

教室職員様専用
QRコード



基礎編 ▶ 片足引きずりクマ

1. 片足クマさんの足を引きずって行う動きです。
2. 右足を怪我したことにして、右足のつま先を地面に引きずりながら痛そうに歩きましょう。
3. 片足クマさんに比べて足を高く上げる必要がありません。
4. しっかりと前を向いて3本足で歩くようにしましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- スピードをつけて歩くのではなく、ゆっくりと歩くようにしましょう。
- 怪我した足は高く上げません。
- 急に足を上げて友達にぶつからないように、しっかりと説明を理解してから行いましょう。
- 顔を前に向けて行うようにしましょう。

養われる力

- ◆ 支持力：手のひらをパーにして、自分の体重を腕で支えることができる
- ◆ 身体面：3本足で歩くことに慣れましょう
クマさん歩きに比べて腕への負荷が強くなります
- ◆ 身体のコントロール：手と足がぶつからないように、歩くことができる

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ サルクレーン車

1. 鉄棒にぶら下がり、足で地面の物をつかみましょう（クレーン車のイメージ）。
2. つかんだ物は、決められた場所に入れるか、先生に渡しましょう。
3. 鉄棒は少し高めのもを使いましょう。
4. 最初は積み木など、足でつかみやすい物から始めましょう。
5. 腹筋や太ももを使う遊びなので、徐々に高い位置の物にもチャレンジしてみましょう。

最初は持ちやすい大きさや素材、形の物をえらんであげましょう！



⚠ 気をつけるポイント

- 肩や肘に脱臼の癖があるお子さんは、無理にぶら下がらないようにしましょう。
- 足元に置く物は、やわらかくてある程度大きい物（人形、フラフープ小、ゴムボールなど）にしましょう。
- 足が上がらない場合は、大人がお尻を支えて補助しましょう。
- 補助をするとき、お子さんの足を全て持ち上げてしまうのではなく、お子さんが精いっぱい力を入れた上で少しだけ補助をするようにしましょう。
お子さん自身も力を出せるよう、指3本くらいの力で補助してあげるのが良いでしょう。

養われる力

- ◆ 懸垂力：腕でぶら下がる力を養う
- ◆ 身体面：腹筋と太ももの筋肉を刺激して、姿勢作りに必要な抗重力筋を養う
- ◆ 空間認知：ぶら下がった状態でも、足元の物を拾い上げることができる拾った物を指導者にパスすることができる

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ 片足クマ

1. 手をパーにして着いたら、片足を上げて3本足で進みましょう。
2. 手のひらをしっかりと着くようにしましょう。
指だけでは体重を支えられません。
3. 顔をしっかりと前に向けて進むようにしましょう。
4. 急がないのでいいので、しっかりと手を着いて進むことに慣れましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- 急いで歩くと顔から転んでしまいます。
- ゆっくりと進むように最初のうちは1人ずつスタートするようにしましょう。
- 後ろの友達に上げた足が当たらないように注意しましょう。
- 最初から足を高く上げると転んでしまいます。
- まずは足を上げる高さを気にせず、3本足で進めればOKです。

養われる力

- ◆ 支持力：足を少し高くすると腕への負荷が増しますしっかりと腕で支えることができる
- ◆ 身体のコントロール：左右のバランスを崩さずに、手→足とスムーズに進むことができる
- ◆ バランス力：前後左右のバランスが安定しなければスムーズに進むことができません
手と足が絡まらないように進むことができる

教室職員様専用
QRコード



基礎編 ▶ グーチョキパー

1. 手でグー、チョキ、パーの練習を行って素早く出せるように動機付けしましょう。
2. 次に、大人は口だけで、「グー、チョキ、パー」と言ってお子さん達の動きを誘導します。
3. 両手でグー、チョキ、パーを素早く出しましょう。
4. 素早く手で出せるようになったら、今度は立ちあがって腕も使って、大きな「グー、チョキ、パー」を出しましょう。

！ 気をつけるポイント

- しっかりと聞き取れるように、お子さん達を話に集中させて実施しましょう。
- お子さん達の指先がしっかりと伸びて「グー、チョキ、パー」が出ているか確認して下さい。
- 両手で素早く出すことができない子には、お家でもやってもらえるよう保護者をお願いしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

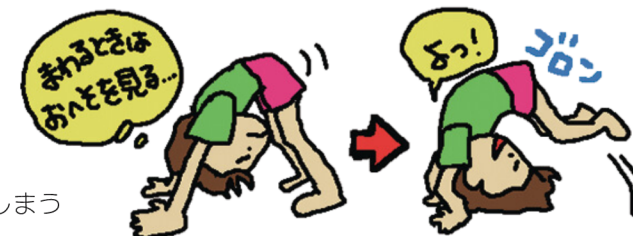
- ◆ 判断力：大人の声に合わせて、素早く動くことができる
- ◆ 集中力：大人の声に集中して、聞き流すことがない
- ◆ 模倣力：言語を動作に変えることで前頭前野が強く働きます
素早い動きの変化にもついていくことができるようにする

基礎編 ▶ 前転（遠心力で回る）

1. 手を肩幅に開いて、つま先に近い位置に着きましょう。
2. 膝の曲げ伸ばしを使ってポンポンと軽くジャンプするようにしてタイミングをつかみましょう。
手はパー、おへそを見て、頭の後ろ（後頭部）をついて回ることなど、前転のポイントを確認してから行いましょう。
3. 「イチ、二、サン」のタイミングで足を蹴り上げたら、顎を引いて前転をしましょう。
4. マットに額や頭頂部を着くのではなく、後頭部を着くようにしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 足の蹴り上げと同時に顎を引かなければいけません。顎を引けていない子は、頭頂部からマットに突き刺さってしまう危険があります。
- カエルの足打ちを繰り返して行って、手で体を支えた状態で足を蹴り上げる動きが十分コントロール出来るようになってから行いましょう。
- 大人は補助として、お子さんの後頭部を押して顎を引きやすいように補助してあげましょう。
- 後頭部の補助と同時に、身体を回転させてあげるとスムーズに回ることができます。



養われる力

- ◆ 回転感覚：縦回転は、お子さん達の動きを広くするために有効です
着地のポーズをきちんと決めることができる
- ◆ 身体のコントロール：回転するためにジャンプと同時に顎を引くようにする頭をしっかりと入れてスムーズに回転することができる
- ◆ 空間認知：足で軽くジャンプをした力を回転に変えることができるこのときに自分の身体がどのようなになっているのかを把握して前転することができる

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ 歌に合わせてグーチョキパー

1. グー、チョキ、パーの歌に合わせて手や足を動かしましょう。
2. 「手はグーで足はチョキ」「手はパーで足がグー」など、手と足、右手と左手などアレンジしてみましょう。
3. 右手と左手は違うものを出すようにしましょう。
4. 慣れてきたら、グーチョキパー以外のものも使ってみましょう。
例) 右手は、人差し指1本。
左手は人差し指以外の4本など。

！ 気をつけるポイント

- しっかりとお話を聞きながら行えるように、集中して行いましょう。
- 初めのうちは手だけの動きで行い、慣れてきたら左右の手で違う形を出すようにしましょう。
- さらに慣れてきたら、手と足をバラバラの形にするように進めて行きましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 模倣力：相手の動きを見て自分の動きとして認識することができる
- ◆ 社会性：人に注意を払い、言葉や動きを読み取る
- ◆ 認識面&判断力：言葉を聞いて、素早くその動作ができる

発展編 ▶ 高速前転

1. 前回りを連続で行いましょう。
2. しっかりと手を着いたら、足ジャンプの勢いを回転に変えて素早く前転をしましょう。
3. 手がしっかりと着けていること、足で踏み切りができていることを確認して行いましょう。

！ 気をつけるポイント

- 手が着けていないのに高速前転を行うと首を痛めてしまいます。
- しっかりと手が着けていること、足ジャンプと同時に顎が引けているかをチェックしてから行いましょう。
- 慣れるまでは高速でなくても構いません。確実に手を着いて行えるようになるのが大切です。



養われる力

- ◆ 回転感覚：素早い回転でも自分の力でコントロールすることができる
- ◆ 支持力：腕でしっかりと身体を支えて回転することができる
- ◆ 身体コントロール：手をつく、ジャンプする、顎を引くという動きを同時に行うことができる

教室職員様専用
QRコード

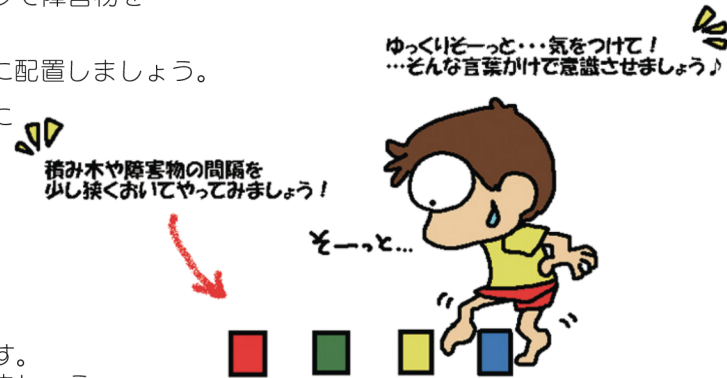


基礎編 ▶ つま先歩き（積み木や障害物の間隔を狭く）

- 1.裸足になってつま先で歩く遊びです。
- 2.30cm幅のコースを作って、その中に積み木やカプラで障害物を設置しましょう。
- 3.カプラなどは置くだけでなく、触ったら倒れるように配置しましょう。
- 4.つま先立ちになったら、障害物にぶつからないように静かにゆっくりと歩いていきましょう。
- 5.コースを3つほど作り、1人ずつスタートするようにしましょう。

！ 気をつけるポイント

- より慎重に、正確な動きを行うことを目的としています。見ている友達も静かに体育座りで待っているようにしましょう。
- 大人のお手本が一番の動機付けになります。つま先で静かに歩く見本を上手に見せてあげましょう。



養われる力

- ◆バランス力：狭いところを移動するときに、フラフラせず安定して歩けることができる
- ◆空間感覚：複数ある障害物の位置を把握して、どこに足をついたら良いか考えて歩ける
- ◆集中力：障害物の位置を把握して、触らないで歩ける

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ カメさん

- 1.お腹を着いたら、背筋を使って身体を反らせましょう。
- 2.手で足をつかんだら、ブリッジのようにお腹を突き出しましょう。
- 3.ゆらゆら揺れるように、身体を振ってみましょう。

！ 気をつけるポイント

- 顔が下を向いていたり、顎が閉じているとなかなか足をつかむことができません。
- 顔が下を向いたままだと、身体を大きく揺らすことができません。
- 顔を上げて背すじを伸ばす姿勢を、大人がしっかり見せましょう。



養われる力

- ◆身体面：腹筋や背筋を刺激して抗重力筋を養う
- ◆空間認知：自分の身体がどうなっているのかを理解して、どこに力を入れたら身体を揺すれるか分かる
- ◆バランス力：フラフラしないでカメに変身して身体を揺らすことができる

教室職員様専用
QRコード



基礎編 ▶ クモの巣側転

- 1.ゴム紐を使って三角形を作りましょう。その角に手を着いたら、側転を行いましょう。
- 2.手を着く位置が分からない子がいたら、ビニールテープなどで印を付けてあげましょう。
- 3.手を着く方向が分からない場合は、下にマットなどを敷き、チョークで手の形を描いてあげましょう。

！ 気をつけるポイント

- 高い位置から手を振り下ろすと、支えきれずに潰れてしまうことがあります。また、手を着く位置を理解しにくい子もでできます。初めのうちは、地面に手を着いた状態から行いましょう。
- 側転のように横方向に移動するには、手を着く位置が重要です。指先が三角形の重心を向くように手を着きましょう。



養われる力

- ◆回転感覚：手をつく向きと進行方向が異なるため、慣れるまではスムーズにジャンプができないかもしれませんが、なれてきたら、円を描くような回転をすることができる
- ◆支持力：自分の体重の全てを腕に乗せて支えることができる
- ◆逆さ感覚：足が高い位置に上がっても、怖がって腰が引けたりしないで回ることができる

教室職員様専用
QRコード



発展編 ▶ 側転

- 1.手をパーにしてしっかりと体重を支えられているかチェックして下さい。
- 2.手を着く向きが進行方向に対して90度になっているか見て下さい。進行方向に対して平行に手を着いていると横方向に動くことができません。
- 3.蹴り上げる足が曲がっていないかチェックをして、曲がっている場合は片足クマ歩きで足を伸ばす練習をしてみましょう。
- 4.顔をしっかりと前（床）に向けて、手を着いている位置を見ながら回れているか確認してください。

！ 気をつけるポイント

- 両手付きの片足クマ歩きで、両手を頭の位置から振り下ろして進むことができるか。できていない場合は、側転をしたときに腕で身体を支えることができません。また、腰が引けてしまい「くの字」で回転することになります。両手付きの片足クマ歩きを繰り返し行い、上記の点がクリアできていることを確認して側転に取り組みましょう。



養われる力

- ◆回転感覚：横方向への動きを理解して、自分で身体を回転させることができる
- ◆支持力：肘を伸ばして、腕で身体を支えることができる
- ◆逆さ感覚：逆さまになった状態でも怖がらず、身体をしっかりと伸ばして回転することができる

教室職員様専用
QRコード



運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動遊びをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

マット綱引き

何人で遊ぶ？

2人から遊ぶことができます。

何を使って遊ぶ？

マットを使います。

どこで遊ぶ？

教室、お家の広いスペースで座布団や布団などを使って遊ぶことができます。

養われる能力



握力を育てることで、全身の筋力向上にも繋がります

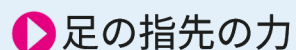
マット綱引きを通して、物をしっかり握る力である「握力」が育ちます。握力とは、主に前腕や上腕の筋肉によって発揮される力で、上半身の筋力のひとつです。また、握力は全身の筋力とも深い関係があることが、さまざまな研究からわかっています。



握力

足の指をしっかりと使って、バランス力と転倒予防を高めましょう

マット綱引きでは、手だけでなく、足の指も使ってマットを引っぺがります。足の指でしっかりと地面をつかめると、前に倒れそうになった時に指が地面をとらえてバランスを保つことができます。後ろに倒れそうな時は、指が上に反ることで重心を整え、転倒を防ぎます。また、足の指をよく使うことで、土踏まずのアーチ（クッションの役割）も高まり、疲れにくい体づくりにも繋がります。



足の指先の力

！ 注意するポイント

●初めて行なう時は、大人とお子さんで行ない、慣れてきたらお子さん同士で引っ張り合ってみましょう。お子さん同士で行なう場合は、体格や力の強さがだいたい同じくらいの組み合わせで行なうようにしましょう。

●引っ張り合いは、広い空間で行ない、壁や机の近くでは行なわないようにしてください。

●マットを引っ張る時は、マットの端をしっかりと持ちましょう。マットのふちをつまんだり、手の中に入れて引っ張るのはケガに繋がるため、避けてください。

運動の説明



1 マットを挟んで向かい合います

綱引きの縄の代わりにマットを用意し、写真のようにマットを挟んで向かい合います。中央に目印を置くなどして「陣地」を決めておきます。



2 マットの端を持って引っぺがります

「よーいドン！」の合図で、マットの端を持って引っぺがります。陣地まで引っぺがったら勝ちです。大人1人に対してこども数人で行なっても楽しめます。



3 【難しい場合】 タオルでもOK！

マットでの綱引きが難しい場合は、綱引き用の縄や、バスタオル・スポーツタオルを使ってもOKです。安全に配慮しながら、遊びやすい道具を選んで試してみましょう。



4 【簡単な場合】

①チーム戦にチャレンジ！

マット綱引きが簡単に感じる場合は、人数を増やして2チームで対戦してみましょう。マットも複数用意して、たとえば「マット3枚で5対5」などのルールで行なうと盛り上がります。マットが足りない時は、座布団や布団、バスタオルなどでも代用できます。



5 【簡単な場合】 ②相手チームより多くのマットを引っ張ろう！

「よーいドン！」の合図でスタートし、自分のチームの陣地にマットを多く引っぺがってこれたチームの勝ちです。



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

お子さんのO脚について

日々の療育の中で、お子さんの歩き方がふらついていたり、両膝がつかない立ち方をしていたりする様子を見かけたことはないでしょうか。今回は、そうした状態の一つである「O脚」についてご紹介します。

O脚とは

O脚とは両膝が外側に開き、足を揃えて立った時に、膝と膝がくっつかない状態を指しています。乳幼児期には多くのお子さんに見られ、生まれつきO脚であることも珍しくありません。特に1～2歳の時期にO脚の傾向が強く見られ、2歳半頃から徐々にまっすぐな脚になっていくことが一般的です。しかし、3歳を過ぎてもO脚が目立つ場合には、別の要因が考えられるため、整形外科などでレントゲン検査を受けるなど、専門機関への相談が必要です。



O脚の判断方法

簡単なチェック方法として、足を揃えて立ち、膝と膝の間に指が2本以上入るかどうかなを確認します。もし3歳以降もO脚の状態が続いている場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

対応策

●環境を調節する

- ☑転倒しやすいお子さんにはヘッドギアの着用を検討し、頭部を保護します。
- ☑床にはクッションを敷き、テーブルの角には緩衝材を取り付けましょう。
- ☑足裏が床に着きにくく、つま先立ちになりがちな場合は、こまめな休憩も取り入れて疲れを防ぎます。

●トレーニング

1 縄越えカンガルー

- 1 地面に間隔を空けて縄を3本ほど置き、障害物に見立ててジャンプします。
- 2 ジャンプする際は両膝をしっかりつけ、両足で着地することを意識します。
- 3 縄を踏まないよう、膝を深く曲げて両手を前に振りながら大きく跳びましょう。

2 お使いカンガルー

- 1 両膝にボールを挟んでジャンプします。
- 2 ボールを落とさないようにしながら前方へジャンプし、慣れてきたらジグザグにも挑戦します。
- 3 常に両足での着地を意識します。



3 足を外に開く運動

- 1 片足立ちになり、もう一方の足はまっすぐに伸ばします。
- 2 転ばないように気をつけながら、股関節を外側に開きます。
- 3 準備運動として取り入れましょう。

4 ボール潰し

- 1 仰向けに寝て、両膝の下にボールを入れて押し潰します。
- 2 5秒間押し潰す動作を、10回×3セット行ないましょう。

今回は「O脚」についてご紹介しました。

3歳を過ぎてもO脚の状態が続いている場合は、専門の医療機関にご相談いただくと安心です。また、遊びや運動の中で転倒などのリスクを軽減する配慮も重要です。

今後も本コラムでは、作業療法士の視点から、療育や発達支援に関する情報をお届けしてまいります。

参考文献

接触解剖ブログ O脚の原因と評価方法 吉田俊太郎
<https://shuntaroblog.com/varus-knee-assessment/>
医療法人社団弘人会 中田病院O脚とは？原因や診断、予防法について解説
<https://www.nakada-hp.com/publicity/column/archive-55/>
間庭整形外科 子どもの成長とO脚・X脚
<https://x.gd/97hb1>

こどもを守る 安全対策だより

安全対策だよりでは、お子さんの安全を守るために教室や家庭で気をつけていただきたいポイントを季節や時期に応じて不定期でお届けいたします。

外遊び・室内遊びの基本ルール

～楽しく遊ぶために、守りたいこと～

声かけで守れる、こどもの安全

ルールは、楽しく安全に過ごすための大切な約束ごとです。

「なぜそのルールがあるのか」

「どうして危ないのか」

をお子さんと一緒に考えることで、納得しながら守れるようになります。

トラブルがあったときは、「どうしたらよかったかな？」と振り返ることで、自分で危険を回避する力が育っていきます。



外遊び

公園や園庭の遊具は、安全に配慮して設計されていますが使い方を誤ると大きな怪我につながる可能性があります。

- ▶▶ 順番を守る、押さない、譲り合うなど、基本的なマナーをお子さんに伝えましょう
- ▶▶ 高温の日は、遊具が熱くなっていないか事前に確認をお願いします



室内遊び

室内では思わぬ事故が起こることがあります。ご家庭でも以下の点にご注意ください。

- ▶▶ 室内で走り回らない
- ▶▶ 机や棚の角にぶつからないようにする
- ▶▶ 椅子や机に登ったり、飛び降りたりしない



出典

国土交通省『都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第3版）』

<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001751662.pdf>

文部科学省『体を動かす遊び中の事故事例と対策』『安全教育に関する資料』

<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/daijinkanbou/jikoboushihoukoku-zentai.pdf>

ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

釣り堀体験

今回は、夏休みにぴったりの体験活動「釣り堀体験」を通して、お子さん達の挑戦する気持ちや達成感が育まれる様子をご紹介します。

ドキドキの釣り体験

こどもプラス塩田教室では、夏休みに毎年釣り堀体験を実施しています。今回は、初めて挑戦するお子さんも多く、当日は期待と緊張が入り混じった様子が見られました。

釣り堀体験スタート！

魚釣りは、糸の長さや力加減が難しく、簡単そうに見えて実は集中力や手先を調整する力が求められる活動です。釣り竿を握って糸を垂らし、魚がかかるのをじっと待つ、初めての挑戦に、ドキドキしながらも楽しんで取り組むお子さん達の姿が印象的でした。

魚が少し怖いと感じるお子さんもありましたが、職員と一緒に挑戦することで安心して釣ることができ、「やった！」「見て見て！」と嬉しそうに教えてくれました。

1人1匹ずつ釣れました！

自分で釣った魚を食べよう！

釣った魚は、調理してもらって食べることができます。店員さんに「焼いてください」とお願いして、自分でお金を払う体験もしました。

自分で釣ったから、もっとおいしい！

焼きたての魚を手にしたお子さん達は、いつもより真剣な表情で味わいながら食べていました。自分で釣った魚を食べる体験は格別だったようで、普段は魚が苦手なお子さんも「おいしい！」と真剣な表情で食べる姿が見られました。

中には、骨まできれいに残さず食べたお子さんもいて、達成感に満ちた様子でした。

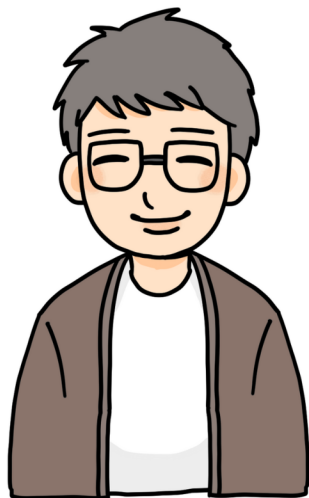


今回自分で魚を釣って食べるという体験を通じて、お子さん達は、食べ物には命があるという大切な気づきを得ることができました。この釣り堀体験は毎年楽しみにしているお子さんも多く、夏の大切な思い出のひとつとなっています。来年の夏も、「やってみる」勇気や主体性、そして自然への関心が育まれるような体験ができるよう、工夫を重ねていきたいと思っています。

職員インタビュー

2025年7月号よりこのコーナーでは全5回の予定で、「ことばの療育」を中心に支援を行っている教室の先生にインタビューした内容をお届けします！

ことのは4号館言語聴覚士 R先生



「この道に進もう」と思ったきっかけ

大学時代にアルバイトをしていた映画館で、難聴のお子さんとお会いしたことが大きなきっかけで言語聴覚士の資格を取得しようと思いました。その子が、映画の感想を一生懸命に身振り手振りで伝えてくれる姿を見て、「ことばを伝えるサポートができるようになりたい」「**こどもにことばを教えてあげたい**」と強く感じ、小児分野の言語聴覚士を目指すようになりました。

児童発達支援管理責任者の資格を取得したのは、保護者の方とお話する際に、言語聴覚士としてだけでなく、「**児発管の資格を持った言語聴覚士**」としてお伝えすることで、より説得力をもって受け取っていただけるのではないかと考えたからです。

「ことのは4号館ってどんなところ？」一日の流れをご紹介します！

ことのは4号館では、お子さんの年齢や発達段階に合わせて、午前と午後に分けた療育を行っています。いずれの時間もお子さんの主体的な行動を大切にしています。

🕒 午前の時間（2歳～年長の未就学児）

個別で、ゆったりとことばの土台を育てる時間

午前中は、主に未就学児を対象とした個別療育の時間です。

お子さん一人に対して職員一人がつき、自由に遊んでいる横で、一緒に遊びながら、ことばの土台である伝えたい気持ちを育てる支援を行っています。

♥️ 机上の課題や決められた遊びではなく、

お子さんの自発的な行動の中から自然にことばが生まれるように関わります。

遊びの内容は、トミカやままごと、プラレール、ボルダリングなど様々です。

必要に応じて保育士・理学療法士・作業療法士もサポートに入ります。

🕒 午後の時間（年長～小学生）

遊び+机上の取り組みで「できた！」を育む

午後は、年長さんから小学生までを対象とした療育時間です。

午前中のような遊びに加えて、机上での支援にも取り組みます。

♥️ 宿題サポートではなく、

知能検査や日頃の様子から「苦手の背景」を探り、脳トレのような支援を行います。

教材は市販のものに限らず、お子さんの好きなキャラクターを使ってオリジナルで作ることもあります。「練習したらできるようになった！」という経験を重ねて自信に繋がってほしいからこそ、できたことは必ずことばでフィードバックするように心がけています。

ことばの専門家として“こどもを支える大人”を育てたい

「**こどものモデルは大人**」この考えのもと、私はことばの支援を“こどもを支える大人”の学びから広げていきたいと考えています。ことのは4号館では、保護者の方向けに言語発達や発達心理学、発音やコミュニケーションに関する勉強会を定期的開催しています。個別支援に加え、多くの保護者に共通する情報を広く届ける場として活用しています。

また、保育士や児童指導員など、**さまざまな専門職が連携し職員研修や日々の支援を通じて“ことばに詳しい先生”を育てています。**言語聴覚士の資格の有無に関わらず、誰もがことばを伸ばす関わりができる環境づくりに努めています。

言語聴覚士として、後輩職員への指導や実習生の育成にも取り組んでいます。小児の支援には難しさもありますが、それ以上に楽しさとやりがいがあり、その魅力を多くの人に伝えていきたいと考えています。これからも、ことばを支える大人の輪を広げることで、こども達の成長を後押ししていきたいと思っています。

ことばが育つ土台を作る～ことのは4号館のインリアルアプローチ～

お子さんへの支援では、「インリアルアプローチ」を意識しています。これは、大人が主導するのではなく、**お子さんの主体的な行動や関心に寄り添いながらことばの力を育てていくアプローチ**です。中でも大切にしているのは、「**受ける**」「**待つ**」姿勢です。大人が先回りしてお子さんの行動を読みすぎたり、何でも手助けしてしまったりすると、お子さん自身の「ことばにしたい」「伝えたい」という意欲の芽を摘んでしまうことがあります。そのため、**まずはお子さんのトライする様子を見守る**ことを大切にしています。お子さんの様子の記録（評価）に関しては、毎日スタッフ全員で共有しながら進め、最終的には個別支援計画の評価シートへ反映させています。記録をとる際にも、単に行動を記録するだけでなく、「**この子にとって人とはどんな存在なのか？**」という視点を持つようにしています。

私は、**言語聴覚士とは「見えないものを見えていることから想像する仕事」**だと思っています。お子さんが発した“ことばではない音”や“視線”“動き”の中にある気持ちや考えを丁寧に読み取ることが、支援の第一歩だと考えています。また、**保護者の方に対しては、お子さんの行動だけでなく、その背景にある心の動きまで伝える**よう心がけています。送迎の際にお伝えできなかった場合でも、連絡アプリなどを通じて丁寧にフィードバックを行っています。お子さんの姿を通じて、保護者の方にも安心していただけるよう、日々努めています。



「はじめてのことば」で広がる繋がり

あるお子さんが、**初めてことばで思いを伝えてくれた**場面に立ち会えたことが、心に残っています。ある日、そのお子さんがパズルのピースを探している様子を見て、私がパズルを指さし「ない」と声をかけたところ、お子さん自身がパズルを指さして「ない」と発語してくれました。それが、そのお子さんにとって初めての自発的なことばでした。その後、お子さんにはさまざまな変化が見られました。これまで**一人遊びが中心だったのが、他の職員と関わる**

姿が増え、他のお子さんのいる部屋へ自ら移動する様子も見られるようになりました。

ことばを使って他者と関わる経験が、その後の行動にも良い影響を与えたのだと思います。

「**物が目的で人が手段**」になるのではなく、「**人が目的で物が手段**」の関係構築が理想的だと考えているため、その一歩となる瞬間に立ち会えたことがとても嬉しかったです。